

Happy Pchum Ben Festival



We wish you a great holiday with your loved one



GOLDEN CAMBODIA CENTURY

GC Orussey Market 9月 建設進捗報告

9月は雨季の影響を受けつつも、現場では天候に応じた作業調整や資材搬入ルートの見直しを行うことで、工程の安定化を図りました。これらの対応により、全体計画への影響は最小限に抑えられております。今後も、早期完成に向けて引き続き体制強化を図ってまいります。







Latest Information

2025年09月27日

CM2Hは、カンボジアの若手リーダーたちとともに、香港政府主催の国際的なイベント「Youth Development Summit 2025」に参加しました。

本サミットでは、世界各国から集まった若者たちが、アイデアを交換し、新しい視点を学ぶ貴重な機会となりました。参加したカンボジアの若者たちは、国際的なネットワークを広げ、異文化理解を深めながら、多くの刺激と学びを得ることができました。

本プログラムを通じて、次世代を担う若者たちが国際社会との交流を深め、さらなる成長への第一歩を踏み出す機会となりました。



CAMBODIA

LATEST INFORMATION

2025年09月25日

カンボジア、2025年「ツーリズムジャパンエキスポ」に参加し日本市場の拡大を目指す



出典：Cambodia joins Tourism Japan Expo 2025 to boost Japanese market

観光大臣フオット・ハック氏は、観光省および民間セクターの代表団を率いて、9月25日から28日まで日本・愛知で開催される「ツーリズムEXPOジャパン2025」に参加する。この取り組みは、フン・マネット首相の承認を得たもので、カンボジアの日本市場における存在感を高め、観光向けサービスパッケージの提供を通じてプロモーションを行うことを目的としています。エキスポ期間中、同大臣は各国の観光大臣との円卓会議に参加するとともに、愛知県知事や名古屋市長など主要関係者と面会する予定です。日本はカンボジアの上位10位以内の訪問者市場の一つであり、本イベントはカンボジアの文化・自然資源を紹介し、パートナーシップを強化し、観光客の増加を促す絶好の機会となります。

2025年09月24日

カンボジアと日本、観光分野での連携強化へ



出典：Cambodia, Japan strengthen partnership to boost tourist flows

2025年9月24日、カンボジアのフオット・ハック観光大臣は日本・名古屋市にて、広沢一郎名古屋市長と観光協力の強化について協議を行いました。会談では、アンコールワットをはじめとする世界遺産の魅力を活かした共同プロモーションや、旅行業界関係者の交流プログラム実施などが議題となりました。本協力は、72年にわたる両国の友好関係を基盤とし、経済的利益や持続可能な観光成長、地方経済の活性化を目指すものです。

2025年09月23日

ベトナム、カンボジアのASEAN域内最大の貿易相手国に

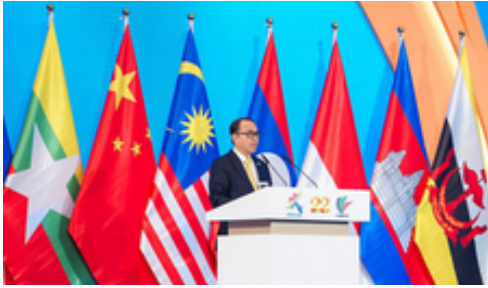


出典：Vietnam emerges as Cambodia's largest trading partner in ASEAN

カンボジア政府の最新報告によると、2025年1～8月の間におけるカンボジアとASEAN加盟国との貿易総額は約110億ドルに達し、前年同期比4.5%増加しました。その中で、ベトナムがカンボジアのASEAN域内最大の貿易相手国となりました。カンボジアからASEAN諸国への輸出額は39億8,000万ドルで16%増加し、輸入額は69億8,000万ドルで1.16%減少しました。カンボジア駐在ベトナム商務事務所のドー・ヴィエト・フオン所長は、「両国の貿易潜在力は非常に大きく、今後は双方の協力により貿易額を200億ドル規模に拡大していきたい」と述べています。主要輸出品には、繊維製品、履物、旅行用品、ハンドバッグ、ソーラーパネル、自動車用タイヤ、電子機器、農産物などが含まれています。

2025年09月20日

第22回中国ASEAN博覧会でカンボジア、デジタル経済と投資の可能性を発信



出典：[Cambodia showcases trade potential at 22nd China-ASEAN Expo 2025](#)

中国で開催された第22回中国ASEAN博覧会（2025年9月17～21日）で、ヴォンセイ・ヴィソット常任副首相は、ASEANと中国の貿易・投資関係が世界経済の不確実性の中でも着実に成長していると述べました。今年のテーマ「デジタル知能とイノベーションが発展を支える—CAFTA3.0による新たな機会」は、地域連携の深化を象徴するものです。カンボジアはペンタゴナル戦略第1フェーズのもと、デジタル経済を成長の柱に据えており、同博覧会では農産物、織物、宝飾品などを展示する国家パビリオンを出展し、投資・観光の魅力を発信しました。

2025年09月19日

国境での民間人襲撃を受け、タイ製品ボイコットが拡大



出典：[Assault on border civilians heats up boycott of Thai goods](#)

バンテアイミアンチェイ州プレイチャン村で、タイ兵が有刺鉄線を撤去しカンボジア民間人を襲撃、女性や僧侶を含む23人以上が負傷した事件を受け、カンボジア国内でのタイ製品ボイコットが一段と強まっています。7月のカンボジア兵拘束以降続く反発が再燃し、国民はスーパーや市場でタイで製造または流通した製品のバーコード「885」を避け、「884」の国産品を選ぶ動きが広がっています。マクロなどタイ系企業も打撃を受け、来店客は通常の15%に減少。専門家は、輸入業者や富裕層にもボイコット参加を呼びかけ、政府に対し国境管理や不正輸入の防止を強化するよう求めています。

2025年09月18日

日本、物流業の人手不足解消へ カンボジア人ドライバーの採用を拡大



出典：[Japan seeks more Cambodian drivers to fix labour shortage](#)

日本の物流業界では「2024年問題」により深刻なドライバー不足が続いており、カンボジア人ドライバーの採用と育成に注目が集まっています。日本では2024年4月から残業規制が強化され、50歳以上のドライバーが半数を占める中、人材確保が急務となっています。アサヒロジスティクスなどは外国人採用を強化し、即戦力となるカンボジア人の受け入れを推進。両国の交通制度の類似性や既存の労働協力枠組みを活かし、現地での訓練や派遣を円滑に進める方針です。これにより、物流業の持続的発展と日カンボジア間の戦略的パートナーシップの強化が期待されています。

2025年09月17日

来月、「証券カンファレンス2025」開催



出典：Securities conference to highlight sector's development next month

カンボジア証券取引規制機構（SERC）は、アジア開発銀行（ADB）と共催で「Annual Securities Conference 2025」を10月7日に開催します。テーマは「カンボジア証券セクターの進化：持続可能性・イノベーション・包摂性・レジリエンス」で、経済財務相兼副首相のオウン・ポンモニロット氏が議長を務めます。会議では、ASEAN諸国の証券監督機関や開発パートナー、上場企業、投資家らが参加し、証券市場の発展動向や国家経済への貢献を議論します。併せて「証券セクター開発戦略2025-2035」の正式発表も予定。カンボジア証券取引所（CSX）は現在25社が上場し、総額5億4,900万ドルを調達。取引口座は約6万件に達し、2025年にはさらに成長が見込まれています。

2025年09月17日

日本のスタートアップ、今後10年でカンボジアのCO₂排出を2,000万トン削減へ



出典：Japanese startup targets cutting 20 Mt of CO2 in next 10 years in Cambodia

日本の環境系スタートアップ「グリーン・カーボン（Green Carbon）」は、今後10年間でカンボジア国内の8～10州、計50万ヘクタール以上に事業を拡大し、約2,000万トンのCO₂削減とそれに対応するカーボンクレジット創出を目指すと発表しました。同社は稲作由来のメタン削減に重点を置き、「間断かんがい（AWD）」技術を導入した水田管理を推進。2024年の試験事業では収量増加と排出削減を両立させました。JIRCAS主導のSATREPSプロジェクトにも参画し、環境省と連携してJCM（共同クレジット制度）登録を進行中です。稲作からのメタン排出はカンボジア農業排出量の半分以上を占めており、本プロジェクトは環境保全と地域経済の両立を図る重要な取り組みとなっています。

2025年09月15日

より多くの航空会社がテチョ国際空港に就航へ



出典：More airlines to launch service to Techo International Airport

カンボジア最大の新空港であるテチョ国際空港（KTI）は、10月から新たにトルコ航空とエティハド航空の2社を迎えます。エティハド航空は2025年10月3日より、アブダビとプノンペンを結ぶ直行便を運航予定です。観光省のフオット・ハク大臣は、同便の開設が観光客増加と国際的な観光促進につながると評価しました。新規航空会社の参入は、年間1,300万人の旅客受け入れを目指すテチョ国際空港の発展における重要な節目となります。

2025年09月12日

カンボジア、フランス企業代表団を歓迎 経済協力と投資拡大へ向け協議



出典：Cambodia welcomes French business delegation, ministers hold talks to boost cooperation and investment opportunities

フランス大使館によると、約30社の有力フランス企業がカンボジアを訪れ、新たな投資機会の探索と経済連携の強化を目的に活動を開始しました。代表団はオリヴィエ・リシャール駐カンボジア仏大使、フランス対外貿易顧問団（CCEF）会長ソフィー・シドス＝ヴィカ氏、MEDEF国際副会長フランソワ・コルバン氏らが率いています。一行は鉱業エネルギー省のケオ・ロットナック大臣、環境省のイーアン・ソッパレット大臣、保健省のチェアン・ラー大臣、財務経済省のロス・セイラヴァ國務長官らと会談し、エネルギー、環境、保健などの分野での協力・契約の可能性を協議しました。また、主要カンボジア企業との昼食会も開かれ、パートナーシップ構築の機会を探りました。

2025年09月12日

カンボジア証券市場、未来を形づくる可能性を秘めて



出典：Cambodia's stock market could shape the future

金やビットコインが世界を魅了する中、カンボジア証券取引所（CSX）はまだ十分に注目されていません。しかし、同取引所には短期的な投機では得られない「国家の未来を支える力」があります。2018～2019年には取引が活発化し株価も上昇しましたが、パンデミック以降は低迷し、多くの銘柄がコーヒー1杯より安い水準に。主な課題は投資文化と金融リテラシーの不足ですが、逆に言えば、若い投資家が新たな市場を築く余地が大きいともいえます。CSXへの投資は、企業成長や雇用創出を支え、安定的で包摂的な金融システムの礎を築く行為です。短期利益よりも「持続的な発展」を見据える人々にとって、CSXは最も価値ある投資先になる可能性があります。

2025年09月11日

日本企業、タイ政府にカンボジアとの国境再開を要請



出典：Japanese investors urge Thailand to reopen borders with Cambodia

タイ国内の日本人投資家らは、カンボジアとの国境閉鎖が物流やサプライチェーン全体に深刻な影響を及ぼしているとして、タイ政府に国境検問所の再開を求めました。要請はバンコクで開かれたタイ暫定内閣の最終会合で議題となり、農産物から電子部品、自動車部品に至る幅広い産業で遅延とコスト増が発生していると指摘されました。カンボジア政府は「タイ側が先に制限を解除すれば、5時間以内に再開に応じる」との姿勢を維持しており、協調的な立場を示しています。現時点でタイ暫定内閣は再開を見送り、新政権の判断に委ねる方針です。カンボジアは地域の安定と経済統合に向け、引き続き協力姿勢を示しています。

2025年09月09日

テチョ国際空港が歴史的開港 カンボジア観光とビジネスの新時代へ



出典：Historic launch of Techo International Airport marks new era for Cambodian tourism and business

カンダール州とタケオ州にまたがるカンボジア最大の新空港「テチョ国際空港」が本日正式に運用を開始し、国内外の旅客受け入れをスタートしました。総工費約15億ドルをかけた同空港は、カンボジアの新たな国際玄関口として地域および世界との航空ネットワーク強化を目指します。開港初便となったエア・カンボジア（K6 611）とシンガポール航空（SQ 155）は、伝統的なウォーターキャノンの祝福を受け、観光相フオット・ハク氏らが到着を歓迎。フン・マネット首相は、航空業が観光・投資・外交を結ぶ重要な柱であり、今回の開港がカンボジア経済の新たな成長段階を象徴する出来事だと述べました。

2025年09月09日

シンガポール、カンボジアでのAIイノベーションセンター設立を模索



出典：Singapore explores establishment of AI innovation center in Cambodia

シンガポール国立大学（NUS）は、カンボジアに人工知能（AI）イノベーションセンター、または知能型機能材料研究所を設立する可能性を検討している。この取り組みは、カンボジアのイノベーション能力を強化し、現地企業が世界市場へアクセスすることを支援することを目的としている。この提案は、カンボジアのハン・チュオン・ナロン副首相と、ノーベル賞受賞者であるNUSのコンスタンチン・ノボセロフ教授との会談で議論された。主な目標には、NUSの研究・交流プログラムに参加する優秀なカンボジアの若者を発掘することや、国際的な協力を通じて理論の実践的応用を促進することが含まれ、カンボジアの開発ビジョンに沿った取り組みとなっている。

2025年09月09日

日本の政局不安で円安進行、アジア株は上昇



出典：Asian shares rise as Japan politics weigh on yen

週明けのアジア市場は上昇し、東京市場では日経平均が前週末比1.9%高となりました。石破茂首相の辞任表明を受け円が下落し、輸出関連株が買われたことが背景です。月曜午前の東京市場では1ドル=148.14円と前週の147.07円から円安が進行。長期国債利回りも上昇し、政局不安が日本経済への不透明感を強めています。香港、上海、台北、ソウルでも小幅高となる一方、シドニーは0.3%下落。米雇用統計の弱さを受け、今月のFRB利下げ観測が強まり、アジア各国の金融政策に一定の余裕をもたらすとの見方が広がっています。

2025年09月08日

アーバンビレッジとファクトリープノンペン、TADAと提携 地域の移動利便性と交流促進へ



出典：Urban Village, Factory Phnom Penh partner with TADA to boost mobility, community engagement

アーバンビレッジおよびファクトリープノンペンは、シンガポール発の配車サービス企業TADA（MVL TADA Cambodia）と9月8日に覚書（MoU）を締結しました。今回の提携は、交通手段の向上と地域コミュニティの活性化を目的としています。TADAカンボジア代表タイ・リムコサル氏と、アーバンビレッジ創設者ベン・リー博士が署名。TADAは今後、指定地点への最大50%割引の専用配車サービスを提供するほか、2026年まで毎月共同イベントを開催予定です。リー博士は「地域社会のための長期的な関係構築を目指す」と述べ、リムコサル氏も「安全で快適な移動を通じ、時間と安心を提供する」と強調しました。本提携は、カンボジアのデジタル経済発展にも貢献する取り組みとされています。

2025年09月08日

スン・チャントール副首相、CGTNインタビューでカンボジアの投資潜在力を強調



出典：Sun Chanthol highlights Cambodia's investment potential in CGTN interview

スン・チャントール副首相（開発評議会第一副議長）は、中国福建省で開催された第25回中国国際投資貿易商談会（CIFIT）後、CGTNのインタビューでカンボジアの投資潜在力を強調した。政府は民間部門の成長を支援し、技能集約型産業への転換を進めると説明。再生可能エネルギーや電気自動車の普及にも注力しており、持続可能な経済成長を目指すと述べた。また、中国の一带一路構想（BRI）がインフラや貿易拡大に貢献していると評価し、国際的な投資協力への意欲を示した。

2025年09月05日

カンボジアと日本、投資関係の拡大で合意



出典：Cambodia, Japan agree to expand investment ties

カンボジアと日本は、プノンペンで開催された第30回日カ経済合同委員会において、経済協力および投資環境の改善に向けた取り組みを強化することで合意しました。会議では、税制や物流、エネルギー、労働など幅広い分野の課題が議論されました。スン・チャントール副首相は日本企業の信頼と投資に感謝を述べ、さらなる高品質な投資促進を呼びかけました。植野篤志大使は、国境衝突による犠牲者への哀悼とともに、180万ドルの人道支援を表明しました。両国は今後も緊密な経済連携を通じ、持続的な発展を目指します。

2025年09月05日

トヨタ通商、2026年初頭に「トヨタアカデミー」開設へ



出典：Toyota Academy to be launched in early 2026, official says

トヨタ通商株式会社は、2026年初頭に「トヨタアカデミー」を開設する予定であると発表しました。同アカデミーは、自動車部品やアクセサリーの生産、そして技能人材の育成に重点を置く計画です。大阪で行われたチャン・ニム商業相と原田繁・トヨタ通商執行役員との会合で明らかにされ、労働職業訓練省の支援を受けて運営される予定です。ニムル商業相はトヨタの投資と技術移転への貢献に感謝を述べ、同社は今後、生産ラインの拡充も計画しています。カンボジアの自動車産業発展と雇用創出が期待されています。

2025年09月05日

カンボジア、約500件の投資プロジェクトを誘致



出典：Kingdom attracts nearly 500 investment projects

カンボジア開発評議会（CDC）の報告によると、同国は2025年1～8月の間に491件の投資プロジェクトを承認しました。これは前年同期の77件から大幅に増加したもので、総投資額は72億ドルに達し、前年比50%増となりました。製造業が50億ドルで最大の投資額を占め、続いてインフラが18億ドル、農業関連が3億7,000万ドル、観光業が1億7,500万ドルでした。中国からの投資が全体の約53%を占め、地元投資が約31%。スバイリエン州とコンポンスプー州が主要投資先で、特別経済区内には191件のプロジェクトが集中しています。スン・チャントール副首相は、投資家の信頼と政治的安定が増加の要因だとし、2025年には500件超の投資と30万人以上の雇用創出を見込んでいます。

2025年09月04日

商務相、日本向けカシューナッツ輸出を支援



出典：Minister of Commerce backs cashew exports to Japan

チャン・ニム商務大臣は9月3日、大阪でMirarth Energy Solutions社の谷口健太郎CEOらと会談し、同社および提携企業に対し、カシューナッツをはじめとするカンボジア産品、特に地理的表示（GI）製品の日本市場への輸出拡大を呼びかけました。ニム大臣は、国際基準を満たす高品質なカシューナッツの加工・輸出を評価し、加工能力の拡充を支援する意向を表明。Mirarth社と商務省との意向書、さらに同社と5社間のMOU締結を祝意しました。一方、谷口CEOは、カンボジア産カシューナッツがすでに日本全国のファミリーマート（16,320店舗）で販売されていることを報告し、コンポントム州での生産体制強化と日本市場への農産品拡大計画を明らかにしました。

2025年09月04日

政府、ラタナキリ新空港プロジェクトを承認



出典：Govt greenlights new Ratanakiri airport project

カンボジア政府は、ラタナキリ州ルンパット郡チェイオドム・コミュニケーションにおける新空港開発計画を承認しました。開発面積は約1,905ヘクタールで、官民連携（PPP）方式により進められる予定です。9月2日には航空庁のテク・サリー国務長官を議長とするオンライン会議が開催され、地方当局や関係部門が開発の進捗と実施メカニズムを協議しました。地元行政は、空港建設が地域経済の活性化や観光促進、雇用創出につながると期待を寄せています。本計画はまず土地指定から始まり、今後は州経済の可能性を踏まえて実施が検討されます。政府は国内インフラ整備計画の一環として、新たな地方空港の開発を進めており、モンドルキリ州の空港建設も重点プロジェクトに位置づけています。

2025年09月04日

カンボジア証券規制当局(SERC)、CSXおよび9証券会社、株式信用取引システムの開発で合意



出典：SERC, CSX, 9 securities firms agree to develop trading system

カンボジア証券取引規制委員会（SERC）、カンボジア証券取引所（CSX）、および9つの証券会社は、株式信用取引システムの開発に関する協定を締結しました。署名式はスー・ソチアSERC局長とホン・ソクホウCSX CEOの立会のもと行われ、約50名が参加しました。本システムは、投資家が証券会社の提供するマージン（信用枠）を利用し、全額現金を用意せずに株式を購入できる仕組みを支援するものです。市場の流動性向上や取引活性化、資本市場の近代化を目的としており、国内外投資家の関心拡大が期待されています。SERCのソチア局長は「この協定はカンボジア証券市場の新たな転換点となる」と述べ、ホンCEOも「国際水準に沿った市場発展への強い意思を示すものだ」と強調しました。

2025年09月03日

カンボジア、2026年に初の150メガワット風力発電所を稼働予定



出典：Cambodia plans to launch its first 150-megawatt wind power plant in 2026

カンボジアは2026年、モンドルキリ州で国内初となる150メガワットの風力発電所を稼働させる計画です。電力公社（EDC）のプラエン・ジャルサ総裁が、鉾山エネルギー相ケオ・ラタナク氏主宰の会議で発表しました。同プロジェクトはフランスのブルーサークル社が開発を担当し、すでに合意が締結されています。ジャルサ総裁は、同州では将来的に合計900メガワットの風力発電が予定されており、政府が掲げる「2030年までに70%のクリーンエネルギー化、2050年のカーボンニュートラル実現」に貢献すると強調しました。現在、国内の電力供給量約5,000メガワットのうち、60%が水力・バイオマス・太陽光など再生可能エネルギーによって賄われています。

2025年09月03日

クメール製品展示会2025、来週プノンペンで開催



出典：Khmer Products Exhibition 2025 to kickstart in PP next week

カンボジア全土の約300企業が参加する「クメール製品展示会2025」が、9月11日から13日までの3日間、プノンペンのコピック・コンベンション&エキシビションセンターで開催されます。本イベントはサムデック・テチョ中小企業開発財団とカンボジア中小企業連盟（FASMEC）の共催で、「国内生産能力の強化と拡大」をテーマに、100種類以上のカンボジア製品を展示します。FASMECのテー・タイングポー会長は、展示会が国産品の利用促進と中小企業支援を目的としていると強調。さらに、地元生産者や農家が収入を得られる仕組みづくりを進めるため、商業省主導の「クメール製品マーケット」も各地で展開されています。

2025年09月03日

カンボジアとベトナム、CVTPPを通じて貿易関係を強化



出典：Cambodia, Vietnam strengthen trade ties, courtesy CVTPP

カンボジアとベトナムは、プノンペンのノボテルホテルで開催された「カンボジア・ベトナム貿易促進プログラム（CVTPP）」において、貿易・投資関係のさらなる強化を確認しました。両国の商務省や貿易代表部の主催により、農業、建設資材、物流、商業サービスなどの分野でネットワーキングや市場開拓が行われました。2025年1～7月の二国間貿易額は49億4,000万ドルと前年比7.5%増。輸出は10.4%増の24億3,000万ドル、輸入は4.8%増の25億1,000万ドルとなりました。両国は今後、貿易額200億ドル達成を目指しており、品質向上と安定供給を重視した連携を強める方針です。

2025年09月02日

マルコス大統領、カンボジア訪問で両国の経済関係を強化へ



出典：President Marcos Jr visit to enhance Cambodia-Philippines economic ties

フィリピンのフェルディナンド・マルコス・ジュニア大統領は、9月7日から9日にかけて2日間の国賓訪問としてカンボジアを訪れる予定です。今回の訪問は、両国が経済関係の強化に向け積極的な取り組みを進める中で行われるもので、二国間貿易協力をさらに推進する契機となる見込みです。

今年2月のフン・マネット首相によるフィリピン訪問では、所得税に関する二重課税防止協定や投資協力、観光・農業・デジタル分野での覚書など、8件の協定が締結されました。現在、両国の貿易額は約1億1,000万ドルに達しており、今後4年間で8億ドルへの拡大を目指しています。

専門家は、農業、製造、教育、観光などの分野で補完関係を強め、持続的な経済成長につながる可能性が高いと指摘しています。

2025年09月02日

カンボジアと中国、貿易・投資関係の一層の深化を誓う



出典：Cambodia, China pledge to deepen trade, investment ties

フン・マネット首相は8月30日、天津で中国の習近平国家主席と会談し、カンボジア・中国自由貿易協定（CCFTA）の下で貿易と投資を拡大する方針を確認しました。両国は「ダイヤモンド六角構想」や「魚と米の回廊」などの協力枠組みを通じ、供給網やインフラ連携を強化することで一致。中国はフナン・テチャー運河など主要インフラを支援し、物流・農業発展を後押しします。2025年1～7月の両国貿易額は前年同期比26%増の110億ドルに達し、中国の投資は全体の半数以上を占めました。

2025年09月01日

米国投資家にカンボジア進出を呼びかけ——関税引き下げで好機拡大



出典：US investors urged to seize opportunities in Cambodia

カンボジア政府は、米国議会代表団との会合を通じ、投資家に対し急速に改善するビジネス環境と新たな貿易機会を活用するよう呼びかけました。サン・チャンソール副首相は、米国がカンボジア産品の関税を49%から19%に引き下げたことを歓迎し、輸出促進と投資誘致への追い風になると強調。フン・マネット首相も、安定した経済成長と投資制度の改革を説明し、米国との互恵的な関係強化に意欲を示しました。専門家は、同国がテクノロジー、教育、観光、グリーンエネルギー分野で投資機会を拡大していると分析。2025年1～7月の対米輸出額は前年同期比25%増の約69億ドルに達しました。

2025年08月31日

アンコールワット、トリップアドバイザー「アジアで最も魅力的な観光地」第1位に選出



出典：Cambodia's Angkor Wat ranked TripAdvisor's most attractive tourist destination in Asia for 2025: PM

フン・マネット首相は、アンコールワットがトリップアドバイザーの「2025年アジアで最も魅力的な観光地」に選ばれたと発表しました。ユネスコ世界遺産に登録されているアンコール遺跡群は、9～13世紀に建てられた91の寺院を擁し、カンボジアを代表する観光名所です。アンコール・エンタープライズの報告によると、2025年1～7月の外国人訪問者数は前年同期比5.8%増の約61万8,000人、チケット収入は2,860万ドルで5.3%増加しました。

株式会社GCCジャパン
〒107-0062 東京都港区南青山2-23-8
外苑ビル8階
TEL:03-5927-1882
E-mail: central@gccjapan.co.jp

